

新入会員 41 期生歓迎会 高島峻輔市長講演会

4 月 14 日、ルネサンスクラシックス芦屋ルナ・ホールにて、学友会総会に引き続き、高島峻輔市長に「JR 芦屋駅南再開発の進捗状況と芦屋の未来」をテーマに語って頂き、新しい仲間 41 期生の皆さんの入会を歓迎しました。参加者は 154 名でした。

講演概要

この写真、普段こんなに上から街を見ることはないと思いますが、実はヘリコプターから撮ったものです。見ていただくと分かる通り、芦屋って本当に狭いです。山にへばりつくような地形で、南北に細長いです。山側の住宅地が多くて、津波が来ると言われたときにはとにかく国道 43 号線を越えて避難してください。堅固な建



物の 3 階以上に避難する「垂直避難」により津波から身を守ることができますので、地元の方以外も利用可能な避難場所をぜひ覚えておいてください。

今日のテーマは大きく 2 つあります。「JR 芦屋駅周辺の再開発」について、「令和 7 年度の予算について」です。芦屋は「教育のまち」として知られています。子どもたちの教育だけでなく、生涯学習や文化活動も盛んで、幅広い世代が学び合える環境が整っています。これが芦屋の良さだと私は思っています。例えば「市民憲章」には、「文化的で豊かなまちを築きましょう」と掲げられており、5 月 3 日の文化の日に制定されました。教育・文化をまちづくりの軸に据えているのです。

さて、JR 芦屋駅の再開発についてですが、芦屋市には 4 つの駅があります。その中で最も利用者の多いのが JR 芦屋駅。なんと 1 日約 5 万人が利用しています。北側は 40 年前に再開発されラポルテなどができましたが、南側は長年再開発が進んでいませんでした。再開発がなぜ難しかったかという、南側には個人の土地やお店が密集しており、市が勝手に進められないからです。だからこそ「再開発事業」という形で、地権者の皆さんの協力を得ながら進めているわけです。

市としては、単なる建物の建て替えではなく、「緑があり、人が歩きやすい、未来志向のまち」を目指しています。車の流れを見るシミュレーションも行いましたが、今すぐに大きな道路をなくすのは難しい。でも 30 年、40 年先を見据えたまちづくりとして、徐々に変えていこうという方針です。また、3 階部分には市民が利用できる「公益施設」を予定しており、何を作るかについては来年度以降、市民ワークショップを通じて決めていきたいと考えています。図書館などのアイデアも出ています。

予算の話に移りますが、私たちが大事にしているのは「市民力」。つまり、市民の皆さんが「こんなことをやってみたい！」と自主的に動けるようにすることです。たとえば、通学路である「ライト坂」で交通事故が多発していたため、地域住民が立ち上がり、安全対策を求めたことがきっかけで、高速道路並みのガードレールが設置されました。

また、人口減少にも直面しており、現在約 9 万 3 千人の人口が 30 年後には 8 万人を下回ると予測されています。若い世代の流出を防ぐためにも、「教育の質」や「住まいの確保」に力を入れています。特に市営住宅の活用では、空き部屋をリフォームし、若い世代が住みやすいように工夫をしています。空き家対策として、低所得の若い世代への住宅支援制度も始めています。そのほか、福祉では高齢者向けの「緊急通報システム」の条件緩和、認知症対策、在宅介護の支援も強化しています。

最後に、JR 駅前再開発のほか、阪神芦屋駅のホーム延伸や南芦屋浜のドッグラン整備、さらにはごみ処理場の更新と神戸市との連携など、将来を見据えた取り組みも進めています。これからの芦屋について市民の皆さんと一緒に考え、育てていきたいと思っています。



質疑

①三条町と山手町エリアで始まった乗り合いタクシーについて。現在は 1 年間の実証実験として運行中とのことですが、この取り組みが今後も継続されるのでしょうか。また、バス路線のない他の地域にも将来的に拡大される可能性があるのでしょうか。

……三条町や山手町は市内でもバスの便がない地域です。これまでもコミュニティバスの話はあったのですが、実現には至っていませんでした。そこで今回、予約制で運行する「デマンド型乗合タクシー」を導入して、1 年間の実証実験を始めました。今後、利用状況を見ながら継続の判断をしていきたいと思っています。平日での運行・予約は 2 時間前まで可能で、地域外の方でもご利用いただけますので、ぜひご活用ください。

②阪急バスの路線変更について、市としてはどのような意図で話し合ったのでしょうか？

……阪急バスさんも経営がかなり厳しい状況です。利用者の減少、そして運転手不足という 2 つの大きな問題を抱えています。地域交通の足としてバスは必要ですが、利用の少ない区間まで無理に走らせるのは現実的ではありません。なるべくバスを選んでいただけるよう、市民の皆さんにもご協力いただけたらと思います。

③高齢者バスの半額助成制度についてアンケートも取られたとのことですが、制度の持続可能性や今後の改善方針はどうなっていますか？

……現在の助成額は年間 9,000 万～1 億円ほど大きく、これから高齢者が増えるにつれて財政的にも大きな課題です。一方で「とても助かっている」という声もたくさんいただいています。だからこそ、より使いやすく、持続可能な制度にしていくため、現在改善案を検討中です。今年中には何らかの提案ができると思います。ん

④市長の施政方針では子育て、教育といった子供たち、若い人たちへの支援がとても手厚く感じられます。高齢者には「芦屋すこやか長寿プラン」がありますが、介護や認知症への対応が主で高齢者が「支えられる側」の視点に立っています。高齢者が「支える側」として関わる機会をもっと増やしてほしいです。また、例えば若い世代との対話の場を作るなど、交流を深められる仕組みを検討していただけたら嬉しいです。

……される側ではなくする側になりたいと言ってくれる先輩や世代がいる町というのは本当に幸せなことだと思います。「こんなことを本当はやりたい」と思っている方や、新しい活動を始めたいと思っている方は多くいらっしゃるのではないのでしょうか。芦屋市では、そのような新しい活動を支援する市民提案型事業を行っています。この事業では、市民活動団体や個人が安全・安心、福祉、環境、地域活性化など、住み良い街づくりに向けた自主的な取り組みを提案し、その事業に対して助成金を提供しています。最大で 15 万円まで助成されるため、「こんなことをやってみたい」という方々にはぜひ活用していただきたいです。また、市民活動センター・リード芦屋は、そのような活動に関する相談窓口でもあります。「何かを始めたいけれど具体的にどうすればよいか分からない」という方はぜひ相談してみてください。さらに、若い世代との交流にも関心が高まっていますので、市としても来年に向けて何か新しい施策を検討していきたいと思っています。

⑤最近、街に花や緑が増えてきてとても素敵だと思います。その延長で、音楽や絵画などの文化活動がもっと日常に溶け込むようになれば、「文化のまち・芦屋」としてさらに魅力が増すと思います。たとえば、ルナ・ホールなどを活用して、少人数でも楽しめる演奏会や展示などを定期的で開催してはどうでしょうか？

……実は去年から「国際文化推進室」を立ち上げ文化を取り込む体制を整えました。ルナ・ホールは非常に有名な建築物でもあるのですが、現状ではバリアフリー対応が不十分で、改善が求められています。今すぐの建て替え予定はありませんが、課題はしっかり認識しており、今後の検討課題としています。

⑥高齢者がよく利用する施設が阪神バス沿線にあるのに、割引対象になっていないのは不便です。

……運賃支払いシステムの違いなどがネックになっているようですが、ごもっともな意見なので、今後の検討課題として挙げておきます。今、芦屋市で最も大きな課題のひとつが「公共施設の再編」です。少子高齢化により、今後の財政も厳しくなっています。市民の皆さんと一緒に、どの施設

をどう活用していくかを考えていきたいです。5 月には「公共施設をテーマにした対話集会」を予定しています。オンライン参加も可能ですので、ぜひご参加ください。



高島峻輔芦屋市長



司会の越智会長

